

Wakopak® Fluofix® - II 120E 取扱説明書

本カラムは高純度シリカゲルを原料とし、フッ素化合物を化学結合させた充填剤を充填したカラムです。この説明書をよくお読みの上、Fluofix® - II の性能を十分に発揮させ正しくご使用下さいますようお願い致します。

1. カラムのご使用にあたって

- (1)カラムの取扱いは慎重に行なって下さい。カラムに強い衝撃を与えるとピーク割れの原因となりますのでご注意ください。
- (2)カラム接続タイプは各社異なっておりますのでご確認の上、取り付けて下さい。異なったタイプを使用しますと液漏れや性能低下の原因となります。
- (3)カラムには移動相の流れる向きを表示しております。必ず表示にしたがって取り付けて下さい。

2. 移動相について

- (1)移動相は必ず $0.45 \mu\text{m}$ 以下のメンブランフィルターを用いてろ過し、脱気した後使用して下さい。
- (2)使用可能な pH 範囲は 2.0~7.5 です。この範囲外の pH でも使用可能ですがカラム寿命を著しく低下させますのでご注意ください。
- (3)有機溶媒が 40%未満の移動相で使用される場合は後述の 6、の使用方法にしたがって注意しご使用下さい。
- (4) Fluofix® - II はフッ素系充填剤の特性として塩基性物質を吸着しやすく、これらの分析の際には TBAC(テトラブチルアンモニウムクロライド)等を添加して使用して下さい。

3. 分析

- (1)なるべく 20MPa(約 $200\text{Kg}/\text{cm}^2$)以下の圧力でご使用下さい。
- (2)カラムの急激な圧力変動はカラム劣化の原因になります。
- (3)移動相の組成を頻繁に変えることはカラム劣化の原因となります。

4. 試料の調整について

- (1)試料はできる限り移動相と同組成の溶媒で調整して下さい。
- (2)カラムの詰まりや充填剤の劣化の原因となりますので、試料が完全に溶解する溶媒を選択してください。不溶物がある場合は $0.45 \mu\text{m}$ 以下のメンブランフィルターでろ過してください。
- (3)試料溶液の pH はカラムの pH 使用範囲内にして下さい。

5. 保存

- (1)カラム使用後は十分に洗浄し、必ずアセトニトリルでカラム内を置換してください。カラム内に水が残留していると著しく寿命が低下する恐れがあります。
- (2)移動相に塩類を添加した場合は全配管系を測定溶媒と同じ比率の有機溶媒と水の混合溶媒で十分に洗浄してください。アミン類を移動相に添加した場合はメタノール/0.1%酢酸(50/50 程度)の混合溶媒で洗浄した後、メタノールで洗浄して下さい。
- (3) Fluofix[®] -II を長期間ご使用にならない場合はアセトニトリルでカラム内を置換し、しっかりと密栓して保存して下さい。
- (4)カラムを取り外す時は圧力が大気圧に戻ってから行なって下さい。また、恒温槽内でご使用の場合はカラム温度が室温になってから取り外して下さい。

6. 有機溶媒が 40%未満の移動相での使用方法

- (1)有機溶媒を 60 分以上流した後、目的の移動相に変えて下さい。有機溶媒が少ないほど平衡時間が長くなりますのでご注意下さい。水 100%の場合は 5 時間以上の平衡時間が必要です。測定後、必ずアセトニトリルに置換して下さい。
- (2)水リッチな系で測定する場合、途中でポンプを止めたり流速を変化させますと再現性を損なう恐れがあります。再生する場合は有機溶媒を 60 分以上流した後、目的の移動相を流し使用して下さい。
- (3)塩を使用した場合、測定溶媒と同じ比率の塩を含まない移動相か水で洗浄して下さい。測定開始から洗浄終了まで途中で流速を変化させないで下さい。カラム内の洗浄ができずに劣化をおこす原因になります。移動相にアミン類を添加した場合はメタノール/0.1%酢酸(50/50 程度)の混合液で洗浄した後メタノールで洗浄して下さい。
- (4)脈流に対して非常に敏感ですので出来るだけ脈流の少ないポンプをご使用下さい。脈流がありますと安定せず測定できない場合があります。

富士フイルム和光純薬株式会社

〒540-8605 大阪市中央区道修町三丁目 1 番 2 号

■フリーダイヤル:0120-052-099 ■フリーFax:0120-052-806